

# 磐城時報

編輯者 石城郡平町紺屋町十四  
印刷者 石城郡平町紺屋町十四  
發行者 石城郡平町紺屋町十四  
電話 二二二  
代印所 石城郡平町紺屋町十四  
廣告料 一行十四字 一月五拾錢  
日刊（日曜、祭日）休刊

## 小田吉治氏主唱で 滿洲兵慰問の計劃

### 募集は一口五錢以上 常磐銀行平支店と本社で取扱ふ

石城郡好間村小田吉治氏は滿洲方法が徹底的でないのを遺憾と  
事變勃發以來日本軍が帝國のたし小田吉治氏自ら慰問金品募集  
め凡ゆる奮闘を續け寡以て衆にの計劃をたて同志と謀り愈々募  
當り至る處で善戦し大勝を博し集を開始した。主唱は小田吉治  
てゐるが而も尙ほ將卒のうちに氏、野崎滿藏氏の兩氏で賛成者  
は多數の犠牲を出し出身兵の郷は安藤琢磨、佐藤作平、馬目雅  
里にあつては様々な悲活話話が治、高橋龜松の各氏である。募  
起つてゐるのを聞き感謝の念を金品額は一口五錢以上で、應募  
禁じ難いものがあつたが最近の者は平町二丁目常磐銀行平支店  
報によれば滿洲は零下四十度の並に後援の本社に於て之を取扱  
酷寒で日本出征軍人の苦勞は一ひ募集金は常磐銀行平支店に保  
通りでない事を知り且つ石城地管し募集の諸費は全部主唱者が  
方からの出征軍人が非常に多い負擔し募集金には一切手を觸れ  
割合に地方民の之に對する慰問する筈である。

## 先づ三百圓を寄附し 第一線に立つ小田氏

### 地方民に一大衝動

小田吉治氏等計劃の滿洲出征軍北部第四區女教員總會は廿二日  
入慰問金品募集の計劃は別項の午前より開催し急務療法に關す  
如くであるが、小田吉治氏はこの講習會を行なつたが、講師は  
の計劃を發表するに當り自ら三百圓看護婦學校教授赤羽清氏であ  
百圓を慰問金の中に寄附し自ら  
第一線に立つて寄附金を募集す  
る事になつたので地方民に一大  
衝動を興へてゐる。

### 急務療法講演

石城未亡人マア子女史(六五)は此度

### 親戚同志で 慰問品發送

四倉町字新町小玉屋事新妻廣治  
督勵を行ひ風呂場その他の検査  
を執行し消火器の修理を行つた

### 高木中佐の 歡迎會開催

警中同窓會で計劃  
縣立磐城中等學校同窓會では二十  
八日午後五時から同校出身海軍  
中佐高木武雄氏の來平を機とし  
谷口樓で歡迎を兼ね懇親の宴を  
張るが、會費二圓である。

### 磐中生に 表彰狀傳達

石城郡好間村警城中學校四年生  
松野久作君は既報の如く去月十  
四日歸校の途中好間村大字上好  
間字馬場地内好間川に同村吉野  
塚(七ツ)が轉落し押し流されて  
ゐるのを發見し救助したので川  
崎知事から表彰されたが、二十  
六日平署を経て表彰狀を傳達し  
た。

### 千人縫胴巻 滿洲に送る

平町搦手小路藤藤繁藏氏は千人  
縫の胴巻を滿洲慰問兵のため送  
る事になつた。

### 四倉火防督勵

四倉  
町消防組各部では二十五日火防  
督勵を行ひ風呂場その他の検査  
を執行し消火器の修理を行つた

### 泥酔して歸りがけに 女將の首を締める 戸棚の中から犯人逮捕

平町字銀治町野志郎(二六)は  
二十五日午後十時頃平町南町飲  
酒場佐藤屋事佐藤サツ(五五)方  
に登樓し酒十四本を飲み泥酔し  
二十六日午前九時頃立去らうと  
したのを女將サツが発見取押え  
んとしたので手拭でサツの首を  
締めやうとしたがサツは虎口を  
逃れて筋向ひの小川屋そば店に  
駆け込み救を求めた。急報によ  
り平署から刑事急行戸棚にかく  
れてゐる犯人を捕え目下取調べ  
中のである。

### 菅野巡查來任

四倉  
署巡查として二本松署から菅原  
眞一氏(二七)來任する。

### 酌婦に賣り損ねる 女給を連れ出し

石城郡湯本町品川白煉瓦會社職  
工双葉郡新山町生れ前科二犯川  
原義政(二三)は兼てから馴染で  
ある平町材木町カフエ享樂方  
女給警崎村大字西郷坂井佐藏二  
期に比し二百人千二百口の増加  
女坂井マサ(十九)を連れ出し江  
名町白石屋旅館に泊り酌婦に賣  
り飛さうとしてゐたのを平署に  
捕はる。

### 堅實に發展 平庶民金庫

庶民金融機關として平町一圓に  
ほり年々非常な進出振りを見せ  
てゐる信用組合平庶民庫は年末  
に際し貸出し、拂戻し額日に多  
い時は一萬圓、平均五千圓内外  
の多額に上り貸出し申込数毎日  
四五件に達してゐるが、財界不  
振と地方的經濟方面から堅實な  
礎を見たので安堵してゐる。

### 飯野村農況

石城郡  
飯野方面の農家は今年春の植付  
期に於ける天候不順のため收穫  
減を見込し悲觀してゐるが、昨  
年の收穫期に何れも平年作の收  
穫を見たので安堵してゐる。

## 在滿軍人 慰問金品募集

皇國のため身命を捧げ酷寒の滿洲荒野に在  
り暴虐極りなき敵軍の出没に寢食を忘れて  
苦闘を續けてゐる吾出征軍人の辛酸を聞く  
時吾等は心窃かにその犠牲的奮闘に滿腔の  
謝意を抱いてゐた、殊に在滿軍人は東北人  
が大部分を占め殊に福島縣人最も多き中  
石城出身兵百七十余名の多數に上つてゐる  
而も郷土の人々の出征軍人に對する厚意に  
於て極めて冷淡であつた事を遺憾としてゐ  
たのであるが最近に至り各種團體を始め一  
般の人々が感謝の誠意を披瀝するに至り慰  
問金品が續々集まりつつあるを知り無上の  
欣快事とする處である。吾等亦遂に黙し得  
ず皇國のため零下四十度の超酷寒の滿洲に  
於て邦家守護のため活躍してゐる出征軍人  
の辛勞を思ひ左の如く在滿軍人慰問金品の  
募集を開始した次第である  
吾等の意を諒し敢て御賛同あらん事を熱  
望して止まぬ

### 募集方法

- 一、一口金五錢以上(但し金品を問はず)
- 一、取扱所 平町字二丁目 常磐銀行平支店

主催 小田吉治  
野崎滿藏  
磐城時報社  
後援 磐城時報社

募集に關する費用全部は主唱者に於て引  
受け寄附金品には一切手を觸れざる事  
◎募集金品發送に際しては陸軍當局と折衝  
の上適當の方法を採る事

### 木戸口で 贋造銀貨

石城郡内郷村大字宮警城劇場主 惠原猪三郎は二十二日夜好間村 好榮館で興行中入場料中から贋 造五十銭銀貨らしい一枚を發見 平署に届け出た。

### 海盛座興行

海盛座では二十七日夜平館出張 映畫「暴風雨の濤聲」愛は力だ 等を上映する。

### 軍事講演會開催

磐城中学校出身海軍軍令部出仕海軍 中佐高木武雄氏は本春以來軍務を帶 びて歐米各國視察中の處這般歸朝さ れ寸暇を割いて歸省されたのを好機 とし左の如く軍事講演會を開催する 事に決定致しました。多數御來聽を 歡迎致します。

一、日 時 二十七日午後五時

一、講演會場 平警察署會議室

一、講 師 海軍軍令部出仕

海軍中佐 高木武雄氏

主催 平町青年團

(聽講無料)

### 雇人拐帶逃走

郡小名濱町字竹町坂本涉(一八) 假名は平町南町安藤勝三郎 方に雇はれてゐたが二十三日夜 店から現金化粧品等七十五圓を 盗み平署で嚴探中である。

### デフテリア發生

石城郡好間村大字下好間字椎木 平小林直枝(三ツ)は二十三日デ フテリアと判明した。

### 板硝子と鏡の御用は

「電話六八〇番へ」

どんな種類でも用意してあります 理髮器具。化粧品一式

### 芳香園理髮器具店

常磐線平驛前角 電話六八〇番

内科	腸胃	専門	村松
十二指	腸胃病	腸胃病	腸胃病
淋病	婦人病	皮膚病	皮膚病
皮膚病	皮膚病	皮膚病	皮膚病

電話開通 四倉一二二番 早川自動車部 石城郡大浦村

### 醫院開業

門 專 產科 婦人科 花柳病科 入院應需

### 井坂醫院

平町田町(舊合津醫院跡) 電話五五九番

### 學生靴...特賣

耐久無比 新製品

▲ポツクス革 短靴 五圓 編上靴 六圓

不安心なる機械靴より... 新形と耐久本形位の優秀材料たる 大塚自製靴を...

### 大塚支店製靴部

靴の御用は大塚へ 平町田町 電話七七番

### 冬衣暴落品

新 荷 着

嶄新な大衆的なお値段

●着尺モスこ本場銘仙

御婚禮衣裳 豊富に取揃へました 七五三御祝着

「新型シヨール入荷」

### 三井呉服店

平町 電話二八四番

### 高久病院

平町田町(電話五二三番) 醫學士 高久 忠 新潟醫學士 赤羽 清 藥劑士 佐竹 菊雄 内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

「アンカ」コタツに徳用な 木炭 代用 たどん

### 鈴木炭團製造所

製造元 平町古銀冶町杉ノ澤 平町二丁目(警察署通り) 卸小賣所 魚清氷卸部 電話四六七番

### 開院 難波醫院

(平町大町) 電話五〇二番 醫學博士 難波 睦 (入院需に應ず 自炊の便あり) ●看護婦至急募集

### 外科 一般外科 内臓外科 性病科 X光線科

入院隨意(自炊の便あり)

### 安齊外科醫院

元赤心堂病院跡 電話四七五

滋養、強壯劑として愈々好評 偉大なる藥酒「粟守酒」 朝の一盃は精力の原泉、晩の一盃は休眠の助力

栗守酒特約店 大平屋藥店 代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話四六二)